



「悩む」ということは

副校長 矢花 誠伺

世界で多くの人に読まれている（版を重ねている）数学書を皆さんはご存じでしょうか。それは、幾何学の父といわれる古代ギリシアの数学者ユークリッド（ラテン語ではエウクレイデス）が書いた「原論」という数学書です。この「原論」という本は、聖書の次に版を重ねている大ベストセラーです。「原論」よりも前に書かれた数学に関する書物の内容がすべて網羅されているとして、「原論」以前の数学書が後世に残されませんでした。とても難しそうな内容に感じてしまいがちですが、実は小学校の授業の展開でも大切にされている「既習事項（すでに学習した内容）」を活用して問題を解決するという、論理的な証明についても記載されています。

さて、このユークリッドにはとても有名な逸話があります。ユークリッドの有能さを聞いたエジプトの王プトレマイオス1世は、彼をアレクサンドリアに招きました。そして、プトレマイオス王は家庭教師としてもユークリッドを招き、次のようなやり取りをしたと言われています。

プトレマイオス：「あなたが書いた『原論』よりも短く簡単に幾何学を学ぶ道はないのですか。」
ユークリッド：「幾何学（学問）に王道なし。」

たとえ王であっても、学ぶことに近道はないと話したというエピソードで、努力を積み重ねる大切さを話すときに現在でも引用されています。

子ども達の学びを見ていると正解となる解法だけが良いもので、不正解になる解法は無駄なものだと感じる子が多くみられます。子ども達の「これであって？」という問いかけは、不正解になる解き方をせずに、すぐに正しい解法を教えてほしいという気持ちの表れです。しかし、学ぶことに近道はありません。どれが正解にたどり着く道なのかわからなくても不安な中進み、試行錯誤しながら正解にたどり着いた時に、たどったすべての道が学びになります。とても辛くて苦しいことですが、だからこそ「わかった」時の喜びが、記憶となり知識となっていきます。

そしてこれは、近くで見守る大人も忍耐が必要です。「こうすればいい」と助けたくてなるものです。あるはずのない近道を教えてしまいます。良かれと思って教えたことが、学びの機会を奪ってしまうかもしれません。質の良い学びは、誰かにもらったヒントから正解にたどり着く方法だと確信してから学ぶことではありません。悩んだ先にある「わかった」という喜びが大切なのです。

今の世の中は情報に溢れ、インターネットや生成AIを使えばすぐに必要な知識を得ることができます。さらにタイパ（タイムパフォーマンス）やコスパ（コストパフォーマンス）が良いことが、価値のあることだと捉える風潮があります。しかし、古代エジプトから学問には王道、つまり近道はないと言われています。悩んでいる時の子どもの思考は、多岐にわたります。必要がないことまで考えているかもしれません。タイパ、コスパが悪くとも子どもにとっては大切な時間と過程です。子ども達の学びに本当の意味で寄り添って、ともに喜ぶことができる大人でありたいものです。

1 1 月の行事予定

日	曜	行 事	補 習	桐 つ 子	日	曜	行 事	補 習	桐 つ 子
1	土				16	日			
2	日				17	月	全校朝礼 学芸会リハーサル①		
3	月	文化の日（祝日）			18	火	学芸会リハーサル②		
4	火	全校朝礼		○	19	水			
5	水	たてわり班遊び			20	木	学芸会（児童鑑賞日①）		
6	木		○	○	21	金	学芸会（児童鑑賞日②）		
7	金	児童集会		○	22	土	学芸会（保護者鑑賞日） ※弁当		
8	土				23	日	勤労感謝の日（祝日）		
9	日				24	月	勤労感謝の日 振替休日		
10	月	全校朝礼 委員会		○	25	火	振替休業日		
11	火	安全指導・点検		○	26	水	全校朝礼 あだちからの日		
12	水	B時程4時間			27	木	持久走練習期間 避難訓練		○
13	木	就学時健診 B時程4時間			28	金	お誕生日給食会（11月生）		○
14	金	B時程 交通安全教室（1・4）		○	29	土			
15	土				30	日			